

## 第18回 円山川流域委員会 議事録(概要版) 会議の概要

日時： 平成24年12月26日(水)14時00分から16時20分

場所： 但馬地域地場産業振興センター 多目的ホール (じばさん TAJIMA 2F)

### 1. 開会

庶務担当の(株)東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

### 2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

### 3. 議事内容

1. 第17回円山川流域委員会の審議結果報告
2. 円山川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)について
3. 今後のスケジュールについて
4. その他

### 4. 審議内容および決定事項

#### 4.1 第17回円山川流域委員会の審議結果報告

庶務が第17回流域委員会の審議結果の報告を行った。第17回流域委員会において回答がされていない質問に対して河川管理者より回答があった。

#### 4.2 円山川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)について

河川管理者より円山川水系河川整備計画(原案)(国管理区間)の説明を受け質疑を行った。主な意見・質問等は以下のとおりである。

##### <主な意見・質問>(意見：◇、質問：◆)

◇これだけの内容を説明されても理解するのが困難である。委員長ら専門家が問題点を整理し、当局に説明を要求して欲しい。(山口委員)

→委員各位がこれまで関心を持たれてきたところを中心にご発言頂きたい。(委員長)

◆①軟弱地盤であるため堤防の嵩上げは難しく水位の低減を行うという理解でよいか。②弱い堤防については強くすることのだが、箇所は堤防質的強化対策の必要箇所図のみで完了なのか。予算等の関係でこの箇所のみなのか。③越水しても決壊しない堤防を整備すれば流域全体で遊水機能を持たせることで水害に対応できるのではないか。(上田委員)

→①地盤改良には時間もお金もかかるので目標とする洪水でも計画高水位内に収まるように水位低減を行う。ただし、河道掘削は環境上難しいので最低限の堤防整備とするために遊水地を整備する。②堤防質的強化対策の必要箇所図に示した箇所ですべて完了する。③流域全体の取り組みとしては兵庫県の総合治水条例に対して支援、参画していく。(河川管理者)

◆洪水の目標は平成16年台風23号であることがわかるが、地震や津波の目標は数値で示せないのか。(安森委員)

→堤防は地震で崩れた後に津波がきても家屋に被害が出ないような高さを確保しようと考えている。津波に対しては最大クラスの津波と施設設計上の津波の二つを想定している。日本海側では中央防災会議等の検討結果を踏まえて検討していきたい。現時点では暫定的に過去の検討結果の二倍の高さとしている。施設設計上の高さとは現在設計している高さであり円山川河口ではTP+2mの高さとしている。(河川管理者)

◆日本海側ではマグニチュード7.5を超える地震は発生しないと考えており、津波は発生しづらいが、秋田では150名以上の被害が出ている。円山川でも津波に関して注視しておく必要があるのではないか。(垣田委員)

→日本海中部地震や北海道南西沖地震など日本海でも地震に伴って津波が発生しており、絶対大丈夫ということではないので整備計画に明記されている。(委員長)

◆中郷遊水地の水位低減効果を検討されているが、これは整備目標の洪水を対象としたものか。また、何トンくらいから効果が出てくるのか。(川合委員)

→対象としている洪水は立野地点でピーク流量が4,900トンであり、越流開始は立野地点で約2,800トンである。(河川管理者)

◇整備計画としての目標はこれでよいと思うが、整備目標を超える洪水が発生した場合にどうするかが課題である。下流部緊急治水対策検討会で避難に関する調査が行われており、水位が膝から上の状態で避難された方が65%であった。情報提供について整備計画に記載されているがこうした事実の継承を含め国、県、市との連携について具体的なシステム作りを進めて頂きたい。(川合委員)

◆①遊水地下流の盆地面積と全体の流域面積の割合はいくらか。②鹿の食害により但馬山地がグランドのような状態になったとき、豊岡盆地への影響はどのようになるのか、次回までに出していただきたい。(前田委員)

→一点目と二点目は関係しているが、土地利用の変遷など流域の変化を考慮して計画が行われている。(委員長)

◆本文を確認して意見を必要があると思うがどのように意見すればよいか。(菅村委員)

→委員からの意見については後日書面にてご提出して頂けるように書式を送る。(河川管理者)

◆①中郷遊水地の効果はどのくらい続くのか。ピークの前に満杯にならないのか。遊水地に水が入り始めると国府のポンプが止まるのではないのか。②遊水地周辺には瀬・淵、礫河原、河畔林、浮き石状態の瀬などの環境があると書かれているが低水路は保全されるのか。③事業監視においてフォローアップ委員会というものが記載されているがどういうものか。(菅村委員)

→①中郷遊水地は平成16年台風23号の洪水では満杯にならずに立野地点で4,900トンを4,600トンにする。国府のポンプについては検証が出来ていないので次回に報告させて頂く。②遊水地については越流堤と周囲堤の設置と遊水地の中の掘削を行い、低水路はさわらない。③フォローアップ委員会については具体的な枠組みは出来ていない。(河川管理者)

→フォローアップ委員会については、自然再生計画に関しての自然再生推進委員会の例も参考になるだろう。(委員長)

◆下流部無堤対策ひの其他地区の事業区間は奈佐小橋から城崎大橋となっているが、現在行われている工事に引き続き結和橋下流も工事されるということでよいか。(木之瀬委員)

→奈佐小橋から城崎大橋までを整備の区間としている。(河川管理者)

◆①円山川現況流下能力図に戸島地区の築堤とあるが整備後の結果が反映されているのか。②下流部のパラペットを作ることによるマイナスの影響はないのか。(岡本委員)

→①整備により白い部分が埋まることになる。②水位は数センチ上昇するがそれを前提に整備を行っている。(河川管理者)

◆鶴岡橋を架け替えると被害がなくなるのか。また、日置橋により被害が助長されているのか教えて欲しい。(江尻委員)

→橋の架け替えにより被害がなくなるわけではないので日高地区、鶴岡・日置地区で堤防整備を行う。(河川管理者)

◆堤防整備率は整備後のどのように変わるのか。完成堤が8.5%というのは他の河川と比べて少ないのか。(菊地委員)

→必要な余裕高を確保しないと完成堤にならない。整備計画では余裕高の確保まで位置づけていないので完成堤の率はほとんど変わらない。8.5%というのは他の河川と比べて低い。(河川管理者)

#### 4.3 今後のスケジュールについて

河川管理者より今後のスケジュールの説明があった。

#### 4.4 その他

特になし。